



三瀨保育園 園だより

February 2021



冷たい北風が吹く中、秋に植えたチューリップの球根は芽を出し始め、木々の先には小さな新芽が顔をのぞかせています。

寒さに負けていないのは植物ばかりではありません。“ほら、かいじゅうみたいやろ～！”と“はーっ”と白い息を吐いて見せたり、縄跳びや鬼ごっこなど体を動かすことでポカポカ温まるのを実感した子ども達も寒さに負けず元気いっぱいです。

今年の節分は124年ぶりに2月2日。節分という言葉には“季節を分ける”という意味があり、“鬼は外！福は内！”と力いっぱい豆をまいて厄払いすることで幸せを招き入れるといわれています。

園の豆まきは2月3日に行いますが、どのクラスも個性豊かな鬼のお面が出来ました。豆まきで心の中に住んでいるおこりんぼ鬼や泣き虫鬼など、悪い鬼を退治して今年の無病息災を願いたいですね。

そして、もう一つ2月の大きな行事と言えば器楽合奏発表会。

コロナ禍で今年は保育園での開催となりますが、一年間色々なことを一緒に頑張ってきたゆり組とすみれ組が心を一つに頑張りますので、子ども達の演奏をより間近で見て、心で聴いて感じて頂きたいと思います。

年度末に向けて各クラスの雰囲気も落ち着き、一番まとまりがあるこの時期。進級や進学を楽しみにしながらも信頼できるお友達や保育士との時間を大切に過ごせるといいですね。

田島 三佐子

クラス目標 ～1か月大切にしたいこと～

たんぽぽ組

感染症に十分留意し、寒い冬を健康に過ごす。
気に入った玩具でじっくり遊んだり、友達や保育者と触れ合って遊ぶことを楽しむ。

もも組

食事や衣服の着脱を自分から進んでしようとする。
保育者や友達と一緒に楽しんでごっこ遊びを行う。

ばら組

排せつや衣服の着脱など身の回りのことを自分で行おうとする。
冬の自然に触れたり簡単なルールのある遊びを楽しんだりしながら戸外で元気に遊ぶ。

うめ組

友達と競い合い、体を動かして遊ぶことを楽しむ。
季節ならではの遊びや行事に楽しんで参加する。

すみれ組

友達と考えを出し合いながら自分たちで遊びを進めることを楽しむ。
友達と一緒に一つのことに向かって取り組む楽しさを感じる。

ゆり組

仲間意識を深める中で互いの良さを認め合い、協力して目標に取り組む。
季節の行事や活動に楽しく元気に期待感を持って参加する。

2月の行事予定



3日(水)	豆まき	22日(月)	身体測定
7日(日)	器楽合奏発表会	25日(木)	お誕生会
17日(水)	避難訓練		
18日(木)	お弁当の日		

*器楽合奏発表会はすみれ・ゆり組のご家庭のみが参加となります。詳細は該当家庭に別紙配布させていただいております。

新しいメンバーが増えました！

只限 彩(ただくま あや)先生

子ども達が沢山の笑顔になれるように、また“今日も保育園楽しかった！”と感じられるよう積極的にコミュニケーションを取りながら早く子ども達と信頼関係を築いていきたいと思ひます。至らない点も多々あるかと思ひますが、よろしくお願ひします！



今月と来月は、年長の担任がこの一年を子ども達と過ごし感じたことなどを振り返ります。

新年度が始まったのが、昨日のように感じますが、気がつくとあっという間に2月になり、残すところあと2ヶ月になりました。今年度は世界的に新型コロナウイルスが大流行し、保育園も当たり前だった日常が制限され、行事等も新しい形を模索する1年となりました。そんな中でも決して落ち込むこともなく、前向きにそして、全力で何事にも取り組む子どもたちの姿がたくさん見受けられました。

私は今年ゆり組の担任をしていますが、「コロナだから何も出来ない」ではなく「コロナだからこそ、今しか出来ない新しいことをしよう」と考えながら1年を過ごしてきました。

いくつか例をあげると、こどもマルシェや夜のおさんぽ保育園、こどもエコスタート等、たくさんの地域の方々や保護者の方々との関わりもありました。その中で子どもたちは多くのことを学ぶことが出来たと思います。

まず、こどもマルシェやこどもエコスタートで「自分たちで考える」という姿が多く見受けられました。保育士が「こうするんだよ」と活動を決めて提示するのではなく、「こんなことをしようと思うんだけどどうするか？」と子どもたちが自ら考えられるような環境を作ることで、「どのようにしたらいいのか」「自分たちが今出来ることは何なのか」と回数を重ねるごとに自分たちで考え、みんなで協力して活動する姿が見られました。

そして夜のおさんぽ保育園では実際にお金を持っていき、自分で選んで買い物をするという体験をしました。この経験を生かし、今度はこどもマルシェで自分たちが販売する側になり、手作りの物を売ることによって「物を作る大変さ」そして「作った物をどのようにアピールして販売するのか」ということを学べたと思います。子どもたち同士で「作ったものはどうやってラッピングしようか？何か書いた方が興味を持って来てくれるのかな？」「看板はこんな風にしたらどうかかな？」「どんな呼び込みをしたらお客さんは買いに来てくれるかな？」等の話し合いも行なわれました。

このように積極的に意見を出し合い、保育士の助言を必要とするのではなく、自分たちで解決しようとする様子が多く成長を感じました。

この1年を通して私たちゆり組は環境のことや金銭のやりとり等、普段の保育園生活では中々学ぶことが出来ないようなことを体験することが多かったのですが、たくさんの方々を支えられ、大変な年ながらも楽しい思い出が作れたと思います。

残り2ヶ月になりましたが、ゆり組で経験した様々なことは子どもたちが今後生きていく中で一生涯、大切になることばかりであり、また、今後色々な困難に直面したとき、きっとゆり組の子どもたちは「こんなときはどうしたらいいのか」ということを自ら考え、立ち向かうことが出来ると思います。

4月から1年生になりますが、保育園で学んだこと、そしてゆり組で体験したことをいつまでも忘れず、自信を持って、小学校に行ってくれることでしょう。そんな子どもたちのことを私たちゆり組担任は誇りを持って送り出したいと思います。